

平成 24 年度

市内遺跡発掘調査等事業報告書

2014

甲州市教育委員会

平成24年度

市内遺跡発掘調査等事業報告書

2014

甲州市教育委員会

## 序

甲州市は塩山・勝沼・大和の各地域からなりますが、それぞれが独自の歴史文化を築いてきたため、豊富な文化資源に恵まれている市です。

遺跡についても同様で、市内には勝沼氏館跡・甲斐金山遺跡（黒川金山）の二つの国指定史跡が所在し、他にも多くの遺跡が眠っています。

本書は、平成24年度に国庫補助事業として実施した、市内遺跡発掘調査等事業にかかる報告書です。24年度は9ヶ所の遺跡について試掘調査等を行っています。

今後も市内遺跡の保護保存が図られるよう、国・県のご指導もいただきながら、発掘調査事業を進めていきたいと考えておりますので、関係各位には一層のご協力をお願い申し上げます。

平成26年3月31日

甲州市教育委員会

教育長 保坂 一仁

## 例　言

- 1 本書は、平成 24 年度市内遺跡発掘調査等事業にかかる実施報告書である。
- 2 事業は、文化庁の国宝重要文化財等保存整備費補助金により行った。
- 3 事業の期間は、平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日までである。
- 4 本書にかかる出土品、図面、写真等の記録類は、甲州市教育委員会で保管している。

## 凡　例

- 1 本書中、各遺跡の位置図は国土地理院発行の 1/25,000 地形図を、調査対象範囲図は 1/2,500 甲州市都市計画基本図等を改変して使用した。
- 2 縮尺、方位等は各図中に示してある。
- 3 挿図は、遺跡ごとに連続する番号を付した。

## 目　次

### 序

### 例言・凡例・目次

第1章 遺跡の所在確認業務について.....	1
第2章 発掘調査等について.....	1
第3章 発掘調査等の概要.....	2
第1節 事業費.....	2
1 事業経費収支予算書.....	2
2 事業経費収支精算書.....	3
第2節 発掘調査等.....	4
1 西之田遺跡.....	4
2 五反田遺跡.....	7
3 馬場平遺跡.....	27
4 大門後遺跡.....	30
5 石骨 A 遺跡.....	33
6 工宮遺跡.....	37
7 熊野八反田遺跡.....	39
8 宮久保遺跡.....	47
9 西ノ原の堡.....	51
抄録・奥付	

## 第1章 遺跡の所在確認業務について

平成24年度の甲州市教育委員会における文化財関係組織は、次の通りである。

保坂一仁 甲州市教育委員会教育長  
山中 宏 教育委員会生涯学習課長  
小野正文 生涯学習課文化財指導監  
飯島 泉 生涯学習課文化財担当リーダー<sup>1</sup>  
雨宮 亨 生涯学習課文化財担当  
入江俊行 生涯学習課文化財担当

開発計画に伴う遺跡の所在確認と、不動産鑑定に伴う遺跡の所在確認については、24年度は246件を数えた。内訳は、開発計画に伴うもの216件、不動産鑑定に伴うもの30件であった。

## 第2章 発掘調査等について

遺跡の所在確認後、周知の包蔵地内において具体的な開発行為の計画がある場合について、文化財保護法第93条及び94条の届出を提出していただき、一部は甲州市教育委員会で工事立会いとし、9件については試掘調査を実施した。そのうち、記録保存のための発掘調査が必要と認められた五反田遺跡、熊野八反田遺跡については、平成25年度に調査が実施される運びとなった。

発掘調査等の体制は次の通りである。

発掘調査担当者 飯島・雨宮・入江

発掘調査・整理作業員 雨宮久美子・栗原礼子・土屋晴子・萩原里江子・深沢茂子・正木なつ子

### 第3章 発掘調査等の概要

#### 第1節 事業費

##### 1 事業経費收支予算書

収入の部

	金額	備考
国庫補助金	1,500,000円	3,000千円の50%
県費補助金	540,000円	3,000千円の25%以内
甲州市負担金	960,000円	
計	3,000,000円	

支出の部

	金額	備考
報償費	0円	
旅費	0円	
賃金	1,600,000円	発掘160日×7,000円、整理80日×6,000円
需要費	549,500円	
消耗品費	50,000円	調査・整理消耗品
印刷製本費	499,500円	報告書1,500円×300冊×1.05、その他DPE、コピー等
役務費	0円	
委託料	0円	
使用料及び賃借料	850,500円	機械借上げ31,500円×27日
計	3,000,000円	

## 2 事業経費收支精算書

収入の部		(上段：精算額 下段：予算額)
	金額	備考
国庫補助金	1,500,000 円	3,000 千円の 50%
	1,500,000 円	
県費補助金	540,000 円	3,000 千円の 25%以内
	540,000 円	
甲州市負担金	960,867 円	
	960,000 円	
計	3,000,867 円	
	3,000,000 円	

支出の部		(上段：精算額 下段：予算額)
	金額	備考
報償費	0 円	
	0 円	
旅費	0 円	
	0 円	
賃金	1,618,000 円	発掘 88.0 日 × 7,000 円、整理 167.0 日 × 6,000 円
	1,600,000 円	
需要費	372,663 円	
	549,500 円	
消耗品費	48,843 円	土嚢、面相筆、ホウキ、コンテナ他
	50,000 円	
印刷製本費	323,820 円	平成 23 年度市内遺跡、宇賀屋敷遺跡発掘調査報告書
	499,500 円	
役務費	4,200 円	仮設トイレ汲み取り
	0 円	
委託料	0 円	
	0 円	
使用料及び賃借料	1,006,004 円	仮設ハウス・ミニユニボ借上げ 187,004 円、重機借上げ 819,000 円
	850,500 円	
計	3,000,867 円	
	3,000,000 円	

## 第2節 発掘調査等

### 1 西之田遺跡

- (1) 所在地 甲州市勝沼町山 237,241,244,191-1
- (2) 調査面積 約 111.46m<sup>2</sup>
- (3) 調査原因 店舗建設に伴う試掘調査
- (4) 調査期間 平成 24 年 6 月 28 日～29 日
- (5) 調査結果

くろがねや塩山店が甲州市勝沼町山字西之田地内へ移転する計画に伴い、同地内に遺跡が存在するかを確認するため試掘調査を実施した（第1図）。同地は周知の埋蔵文化財包蔵地範囲外であり、現況は畠であつたが、店舗建設にあたり大規模な工事を行なうことが計画されていたため試掘調査が必要とされた。調査区（トレチ）は、建物の建設が予定されている地点を中心に設定し、重機による掘削の後、人力で遺構確認などの精査を行った（第2図）。

A トレチは 3.4m × 1.4m で設定し、地表下約 1.2m まで掘削を行った。表土下は礫層と砂層が互い層状に堆積しており、遺構・遺物は検出しなかった（第3図）。

B トレチは 17m × 1.4m で設定し、地表下 0.9m まで掘削を行った。表土下は砂層の堆積が顕著で、遺構・遺物は検出しなかった（第3図）。

C トレチは 16.3m × 1.5m で設定し、地表下 0.7m まで掘削を行った。表土下は砂層の堆積が顕著で、遺構・遺物は検出しなかった（第3図）。

D トレチは 12.4m × 1.7m で設定し、地表下 0.8m まで掘削を行った。表土下は砂層で下層から礫層を検出したため、それより下層への掘削は中止した。遺構は検出されず、遺物は表土中から土師器破片を 2 点検出した（第3図）。

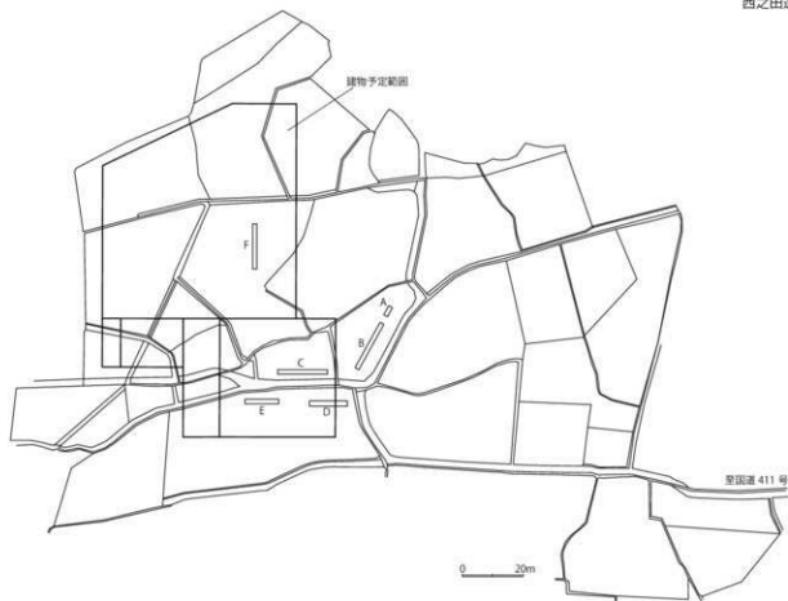
E トレチは 11.1m × 1.5m で設定し、地表下 0.7m まで掘削を行った。表土下は砂層で下層から礫層を検出したため、それより下層への掘削は中止した。遺構・遺物は検出しなかった（第3図）。

F トレチは 14.8m × 1.4m で設定し、地表下 0.8m まで掘削を行った。表土下は砂層で下層から礫層を検出したため、それより下層への掘削は中止した。遺構は検出しなかった。遺物は表土中から磁器破片 1 点を検出した（第3図）。

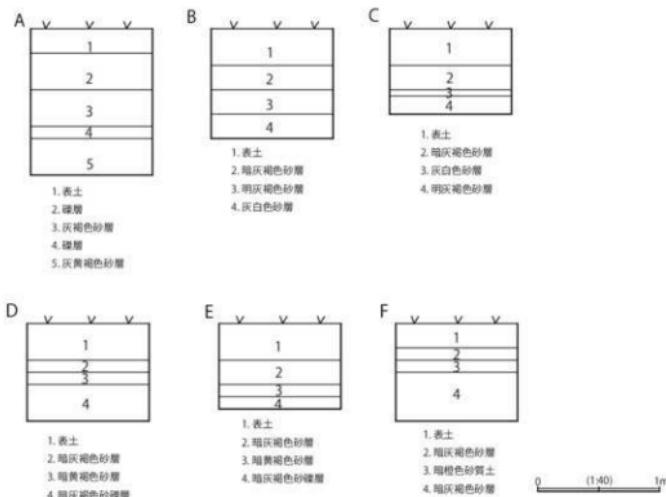
設定した全てのトレチから遺構は検出されなかった。遺物はわずかに数点を検出したのみであり、いずれも表土層への流れ込みと推定される。このため、同地内における開発予定期間内には遺跡の存在は認められない。また、調査地点は土層の特徴から砂層と礫層の検出が顕著であることから、重川の河川敷内であったことが窺える。



第1図 西之田遺跡位置図



第2図 試掘坑配置図 (S=1/1600)



第3図 土層模式図



表土掘削



A トレンチ（西から）



B トレンチ（西から）



C トレンチ（北東から）



D トレンチ（北東から）



E トレンチ（北東から）



F トレンチ（北西から）

## 2 五反田遺跡

(1) 所在地 甲州市塩山熊野字横井 516 番地（1次調査）524,525,526 番地（2次調査）  
505,520 番地（3次調査）

(2) 調査面積 1次調査：約 103.8m<sup>2</sup>、2次調査：約 135.6m<sup>2</sup>、3次調査：約 32.4m<sup>2</sup>

(3) 調査原因 店舗建設に伴う試掘調査

(4) 調査期間 1次調査：平成 24 年 3 月 13 日～31 日、2次調査：8 月 29 日～9 月 5 日、  
3次調査：9 月 18 日～10 月 1 日

### (5) 調査結果

甲州市塩山熊野字横井地内に位置する。同地はかつて塩山バイパス（国道 411 号線）建設に伴って、山梨県埋蔵文化財センターにより発掘調査が行われた五反田遺跡の東側にあたり、その時の発掘調査成果によれば、古墳時代～平安時代の竪穴住居跡などが発見されている。現状は畠となっている同地内に店舗の建設が予定されたため、試掘調査を行うこととなった（第 1 図）。

甲州市教育委員会は平成 23・24 年度の両年度に 3 次に渡って、遺跡の有無と範囲確認を目的とした試掘調査を実施した。平成 23 年度にあたる 1 次調査（平成 24 年 3 月）については、甲州市教育委員会『平成 23 年度市内遺跡発掘調査等事業報告書』（2013）にすでに収録してあるが、同一の案件が年度をまたいで継続された調査であり、調査の全容を把握し易くするという意味で、1 次調査の内容についても改めて再録する。

なお、1 次調査は A～C トレンチ、2 次調査は D～G トレンチ、3 次調査は H～R トレンチにおいてそれぞれ調査を行った（第 2 図）。

### 1 次調査（第 3・4 図）

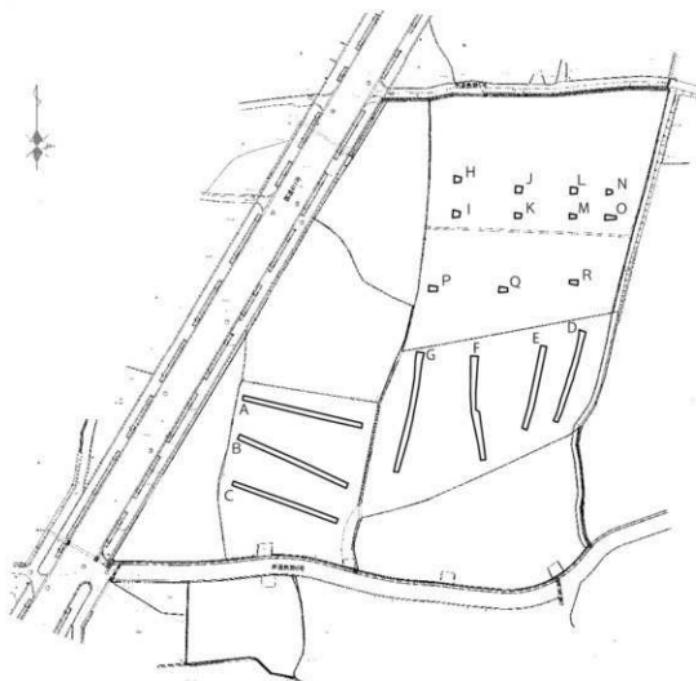
1 次調査は平成 24 年 3 月 13 日～3 月 31 日にかけて、甲州市塩山熊野字横井 516 番地を対象として実施された。

A トレンチは約 30m × 1.2m で設定し、地表下約 90cm で地山とみられる自然堆積層を検出し、遺構確認を行った。その結果、溝 1 本、ピット（小穴）2 基を検出した。溝（1 号溝）は幅約 3.3m、南北に走る溝であるが両端はトレンチの外に延びる。深さは確認面から約 50cm を測り、壁面はゆるやかに立ち上がる。平安時代の土師器片が出土している。

B トレンチは約 29m × 1.2m で設定し、地表下約 1.1m で土器片や焼土が面的に広がる部分を検出したため、重機による掘削を停止し、人力による遺構確認作業に切り替えた。その結果、複数の竪穴住居跡、



第 1 図 五反田遺跡位置図



第2図 試掘坑位置図 ( $S=1/1600$ )

溝1本、ピット1基を検出した。竪穴住居はトレンチの西端に位置し、遺構を掘削していった結果、3軒の重複が考えられた。Bトレンチ内で最も明瞭に検出できたのは2号住で、3号住、4号住はほとんどが調査区外に延びるため詳細は不明である。2号住は東側に石組のカマドを持つ竪穴住居で1辺が3.1m以上、カマドの煙道は南面断面で確認した結果、約1.6mの長さを測る。床面は貼り床とみられる粘土層が一部残存しており、掘り方まで深さは約15cmである。遺物の出土量も今回の調査の中で一番多く、土師器、須恵器が出土しており、平安時代の住居跡と考えられる。

Cトレンチは約27.5m×1.2mで設定し、地表下約90cmで地山と考えられる地層面を検出し、遺構確認を行った。その結果、竪穴住居跡1、ピット2基を検出した。住居跡（1号住）は1辺が約4.4m以上の規模を持つことが推定される。確認面からの深さは約50cmを測り、壁面はやや緩い立ち上がりである。遺物は土師器を主体とし、平安時代の住居跡と考えられる。

A～Cトレンチいずれからも平安時代と考えられる遺構遺物が検出されており、調査地点は集落跡の一部と考えられる。また、当敷地周辺にもこれらに関連する遺跡の存在が推定されたため、引き続き遺跡の範囲を確認するための調査を行うことになった。

## 2次調査（第5回）

2次調査は平成24年8月29日～9月5日にかけて、甲州市塙山熊野字横井524.525.526番地を対象として実施された。2次調査地点は1次調査地点の東側に位置し、店舗建物の建設予定地内に相当する。なお、トレンチの名称や遺構番号は1次調査から連続するものである。

Dトレンチは約23.5m×1.4mで設定し、地表下約60cmで遺構とみられる土層と土器片などの遺物を検出したため、精査して遺構確認を行った。その結果、竪穴住居跡とみられる遺構2軒、ピット2基を検出したため、この面を遺構確認面と判断して調査を行った。5号住とした遺構の西側からは人頭大の礫が検出されており、カマドの一部である可能性がある。5号住、6号住の覆土上面からは土師器片が出土している。

Eトレンチは約21m×1.4mで設定し、地表下約70cmで遺構確認面に達したため、精査を行った。その結果、竪穴住居跡とみられる遺構1軒、溝1本、ピット1基を検出した。7号住の覆土上面からは土師器片が出土している。

Fトレンチは約25m×1.4mで設定し、地表下約60cmで遺構確認面に達したため、精査を行った。その結果、竪穴住居跡とみられる遺構1軒、土坑2基、ピット1基を検出した。8号住は遺構の平面形態から2軒の住居が重複していると考えられる。また土坑とした1・2号土坑は竪穴住居の一部である可能性がある。遺物は土師器を主体とした土器片が検出されており、特に8号住覆土上面からの出土が顕著である。

Gトレンチは約27.4m×1.4mで設定し、地表下約50cmで遺構確認面に達したため、精査を行った。その結果、竪穴住居跡1軒、土坑4基、ピット2基を検出した。9号住はカマドが明瞭に検出されており、遺構はトレンチの西側に延びる。3・4号土坑は竪穴住居の一部である可能性がある。遺物は土師器片のほか、須恵器の破片も検出されている。また、トレンチ内の無遺構部分にサブトレンチを設定して下層の調査を行った。その結果、各トレンチで遺構確認面とした茶褐色砂質土層（Gトレンチでは5層に相当）中から、平安時代と考えられる土師器片が出土した。このことから本層は平安時代の遺物包含層であることがわかった。地山層はさらに下層の6層か7層ということになるが、断面を観察すると7層上面に6層からの掘り込みが見られることから、7層以下が地山と考えられる。なお6層以下ではサブトレンチに限

ってではあるが、遺物は検出されていない。

D・E・F・Gトレーニチから平安時代のものと考えられる遺構・遺物が検出された。2次調査で検出された遺構は、竪穴住居跡5軒、土坑6基（うち4基は住居跡の可能性がある）、溝1本、ピット6基であり、遺物は土師器、須恵器片が出土している。これらは1次調査で確認された遺跡と同じ時代のもので、2次調査地点も五反田遺跡の範囲に含まれるといえる。

### 3次調査（第6・7・8図）

3次調査は平成24年9月18日～10月1日にかけて、甲州市塩山熊野字横井505,520番地を対象として実施された。3次調査地点は2次調査地点の北側に位置し、店舗建物の建設予定地内に相当する。

当敷地内に遺跡が存在するか確認するため、H～Rトレーニチを設定し調査を行った。

Hトレーニチは約1.8m×1.8mで、深さ約1mまで掘削した。なお、3次調査においてトレーニチが小規模なのは、調査当时、葡萄棚が残存しており、十分な掘削範囲を確保できなかったためである。地表下約90cmで地山と考えられる粘土層が検出されたため、その面で遺構の検出を行った。その結果、土坑などの人為的な掘り込みを伴う遺構は検出されなかったが、その粘土層（断面図：第4層）が攪拌を受けていることから水田の痕跡（水田床土）と考えられる。粘土層上面からは土師器片などが検出されており、遺物から平安時代の遺構面と考えられる。また、隣接するIトレーニチからは畦（あぜ）とみられる土層堆積を検出しており、水田遺構に関係するものとして、同一遺構として捉えることができる。遺物は第2・3層から土師器片が出土しており、これらは平安時代の包含層と考えられる。

Iトレーニチは約1.9m×1.8mで、深さ約1mまで掘削した。地表下約80cmで地山と考えられる粘土層が検出されたため、その面で遺構の検出を行った。その結果、Hトレーニチ同様に人為的な掘り込み等の遺構は検出されなかったが、土層断面に畦と考えられる痕跡（断面図：第4層）を検出した。Hトレーニチで検出された水田床土層と関連する可能性もある。畦層の下は黒褐色粘土層となっており、その下は砂礫層である。遺物は畦と考えられる層の上層（第2層）から土師器が出土しており、平安時代の包含層と考えられる。

Jトレーニチは約1.8m×1.7mで、深さ約160cmまで掘削した。地表下約1mで地山と考えられる灰白色砂質土層（断面図：第6層）が検出されたため、その面で遺構の検出を行った。その結果、溝状遺構1（4溝）、ピット1（12ピット）を検出した。なお、トレーニチ内にサブトレーニチを設定し、下層の確認を行ったところ、灰白色砂質土層（第6層）の下層は黒褐色砂質土層（第9層）が堆積しており、検出された溝状遺構（4溝・第5層）はこの黒褐色砂質土層の深さまで掘削して構築されたことが確認された。遺物は第4層から土師器片が出土しており、平安時代の包含層と考えられる。

Kトレーニチは約1.7m×1.4mで、深さ約155cmまで掘削した。地表下約1mで地山と考えられる灰白色砂質土層（断面図：第4層）が検出されたため、その面で遺構の検出を行ったが、遺構が確認されなかったため、下層の土層堆積を確認するため地表下155cmまで掘り下げた。下層では黒褐色砂質土層（第5層）と明灰白色砂質土層（第6層）が検出されたが、無遺物層であったため、上層の灰白色砂質土層（第4層）を地山であると判断した。灰白色砂質土層（第4層）の上層である暗灰褐色砂質土層（第2・3層）からは土師器片が出土しており、平安時代の包含層と考えられる。

Lトレーニチは約1.8m×1.7mで、地表下深さ約125cmで地山と考えられる白灰色砂層が検出されたため、その面で遺構の検出を行った。その結果、溝状遺構1（断面図：第5層・5溝）を検出した。遺構覆土は

粘性の強い黒褐色砂質土で小礫を含み、遺構上面から土師器片を確認している。遺物は遺構確認面の上層にあたる暗灰褐色砂質土層（第3・4層）から土師器片が出土しており、いずれも平安時代の包含層と考えられる。

Mトレーニングは約1.8m×1.3mで、深さ約145cmまで掘削した。地表下約105cmで地山と考えられる灰白色砂質土層（断面図：第5層）が検出されたため、その面で遺構の検出を行ったが、遺構が確認されなかったため、下層の土層堆積を確認するため地表下約145cmまで掘り下げた。下層は黒褐色砂質土層（第6層）と明灰白色砂質土層（第6層下）が検出されたが、無遺物層であったため、上層の灰白色砂質土を地山であると判断した。Kトレーニングで確認した土層堆積とほぼ同じ堆積状況である。地山の上層にあたる暗灰褐色砂質土層（第3・4層）から土師器片が出土しており、平安時代の包含層と考えられる。

Nトレーニングは約1.5m×1.5mで、深さ約150cmまで掘削した。地表下約125cmで地山と考えられる白灰色砂層（断面図：第5層）が検出されたため、その面で遺構の検出を行い、下層の土層堆積を確認するため、地表下約150cmまで掘り下げた。土層断面の観察の結果、ピット（小穴）を確認した。ピットは径約12cm、深さ約25cmを測る。下層は砂層が統いており、旧来の地形は河道であったと考えられる。砂層の上層に堆積した暗灰褐色砂質土層（第4層）からは土師器片が検出されており、平安時代の包含層と考えられる。また、このことから平安時代頃には河道が埋没したものと考えられる。

Oトレーニングは約2.8m×1.4mで、深さ約160cmまで掘削した。地表下約1mで地山と考えられる白灰色砂層（断面図：第6層）が検出されたため、その面で遺構の検出を行った。その結果、ピット1（13ピット）を検出した。また、下層の土層堆積を確認するため地表下約160cmまで掘り下げた。下層は色調の異なる砂層が数層堆積しており、Nトレーニング同様に平安時代以前は河道内であったと考えられる。砂層の上層である暗灰褐色砂質土層（第3～5層）からは土師器片が出土しており、平安時代の包含層と考えられる。

Pトレーニングは約2.1m×1.5mで、深さ約140cmまで掘削した。地表下約125cmで地山と考えられる灰黄褐色砂質土層（断面図：第6層）が検出されたため、その面で遺構の検出を行った。その結果、土坑1（7土・第4層）、ピット1（14ピット・第5層）を確認した。土坑はトレーニング外に延長しており、その規模から考えると住居となる可能性もある。なお、地山の上層の暗灰褐色砂質土層（第2・3層）から土師器片が出土しており、平安時代の包含層と考えられる。

Qトレーニングは約2.1m×1.4mで、深さ約105cmまで掘削した。地表下約95cmで地山と考えられる暗灰黄褐色砂質土層（断面図：第5層）が検出されたため、その面で遺構の検出を行ったが、遺構は確認されなかった。地山の上層の暗灰白色砂質土層（第3層）、暗褐色砂質土層（第4層）から土師器・須恵器片が出土しており、平安時代の包含層と考えられる。

Rトレーニングは約2.1m×1.3mで、深さ約110cmまで掘削した。地表下約90cmで地山と考えられる暗灰黄褐色砂質土層（断面図：第3層）が検出されたため、その面で遺構の検出を行ったが、遺構は確認されなかった。地山の上層の暗褐色砂質土層（第2層）から土師器片が出土しており、平安時代の包含層と考えられる。

3次調査で確認された遺構は、土坑（住居？）1基、溝状遺構2本、ピット4基であり、全てのトレーニングから土師器を主体として遺物が出土している。また、これまでに行われた1次調査、2次調査の成果と比較すると、3次調査地点の遺構分布は薄いといえる。

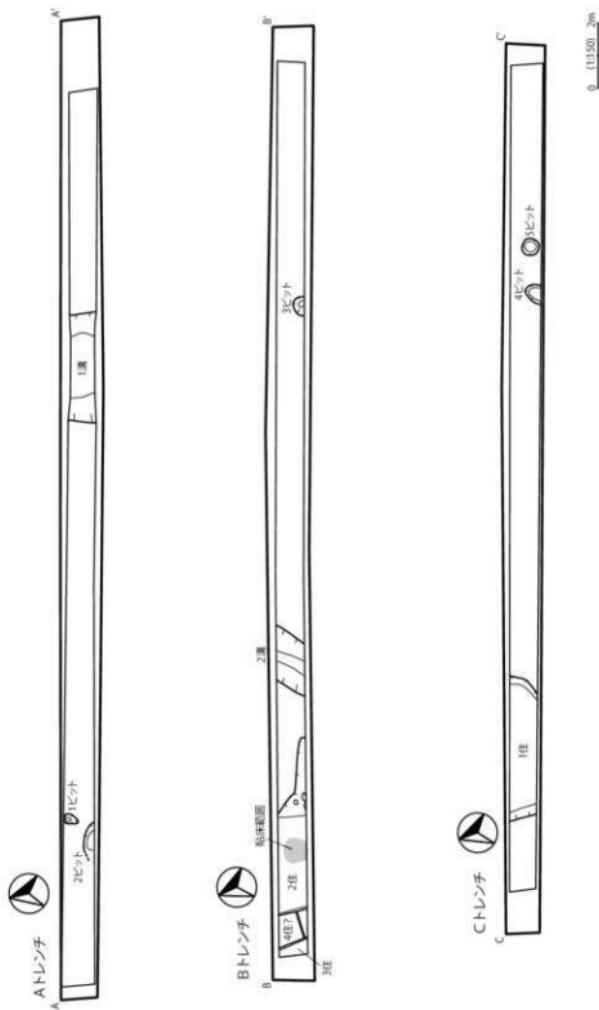
地形的な特徴としては、L、N、Oトレンチの最下層から砂層が検出されていることから、地内に古い河川流路が存在していたことや、その砂層の上に平安時代の包含層が堆積していることから、平安時代の頃には流路が埋没したと考えられる。また、H、Iトレンチからは水田と思われる痕跡が発見されており、こうした流路に近接した水田の存在が示唆される。

生産域としての可能性を有する3次調査地点が、1・2次調査で発見された平安時代の集落域と隣接することから、集落と生産域（水田）が並存するような状態も推定することができるであろう。

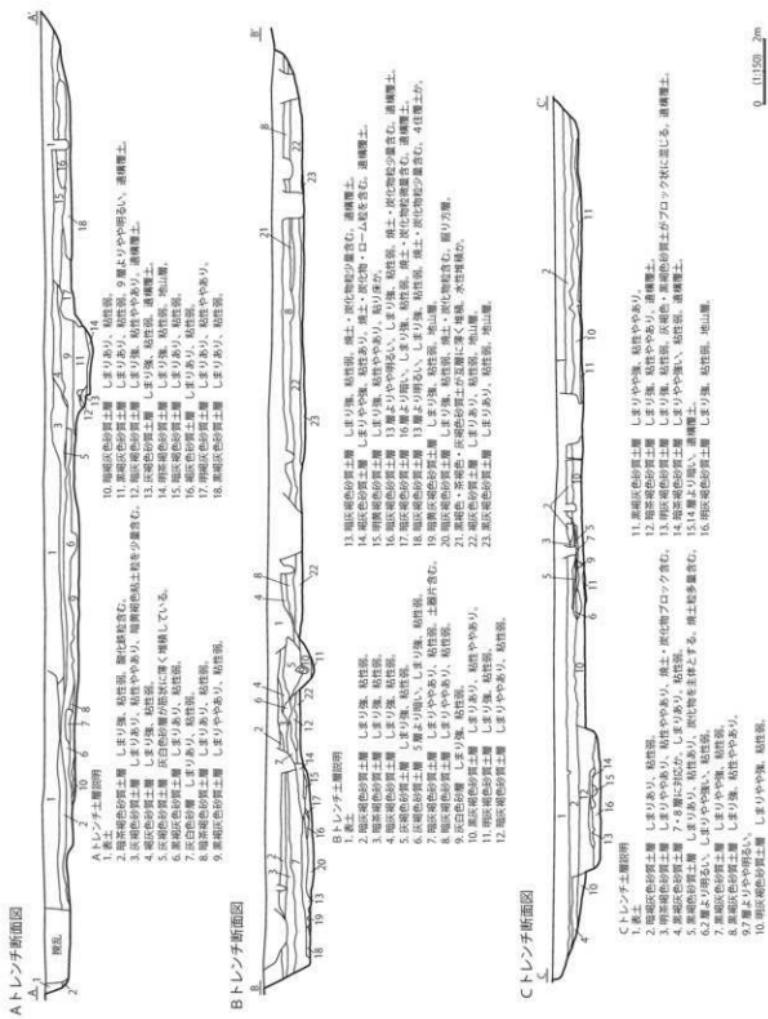
#### 出土遺物（第9図）

今回の調査によって出土した遺物は土師器が主体であり、須恵器は少量である。大半は小片であるが、図化が可能であった6点を図示する。1は土師器蓋で内面に放射状暗文をもつ。2～5は土師器環で、4・5は内面に放射状暗文をもつ甲斐型環である。5の外面には墨書の一部がみられたが、文字の判定は出来なかった。6は土師器甕で外面の縦ハケメは目が粗い。時期は県史編年IV・V期に相当するものと考えられ、9世紀代の所産であろう。

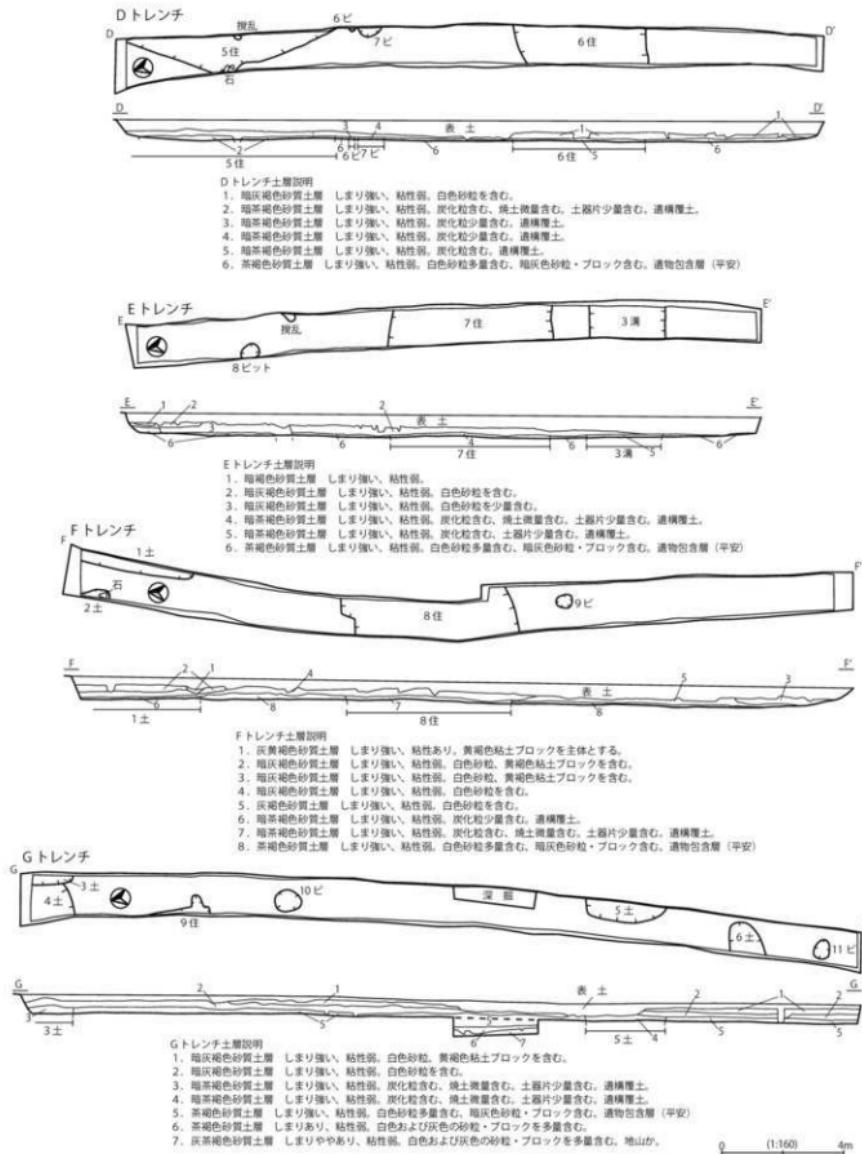
以上のような調査の結果から、店舗建設予定範囲に対して全面的な記録保存調査が行なわれることとなり、平成25年度に調査が実施される運びとなった。



第3図 A・B・Cトレンチ平面図

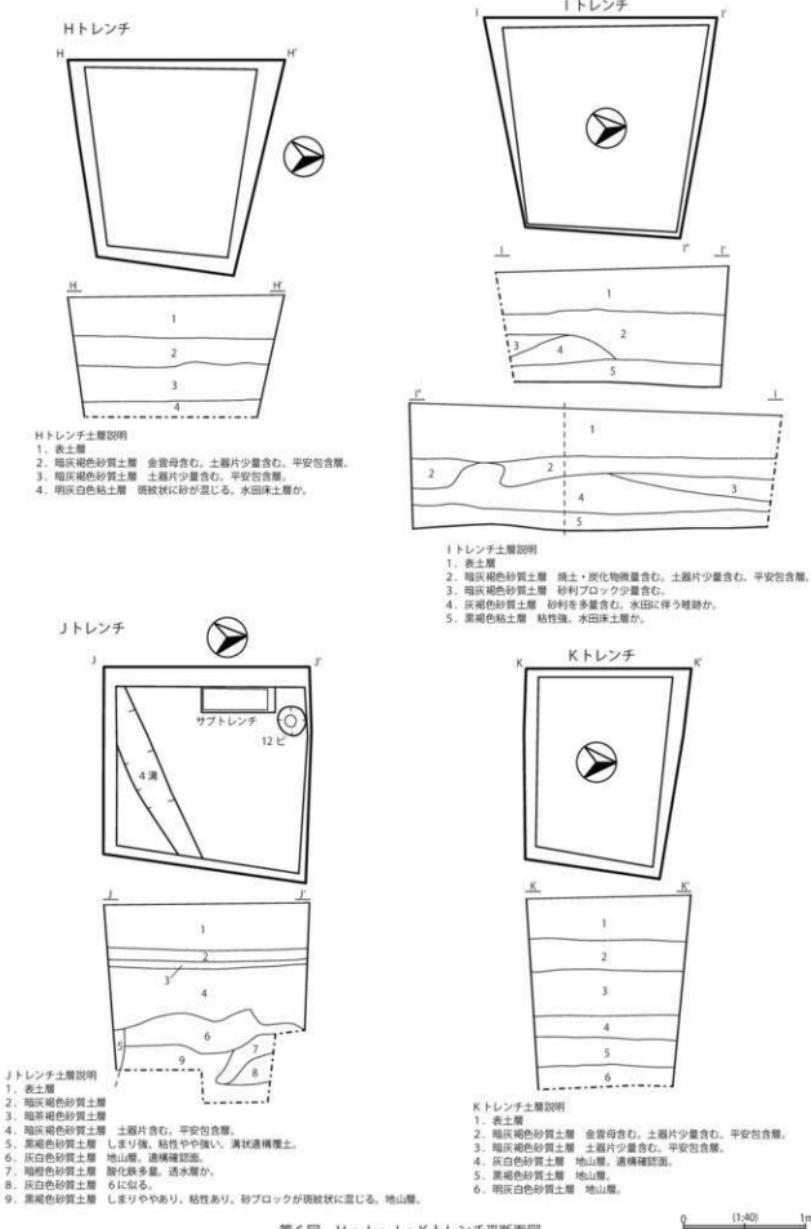


第4図 A・B・Cトレンチ断面図

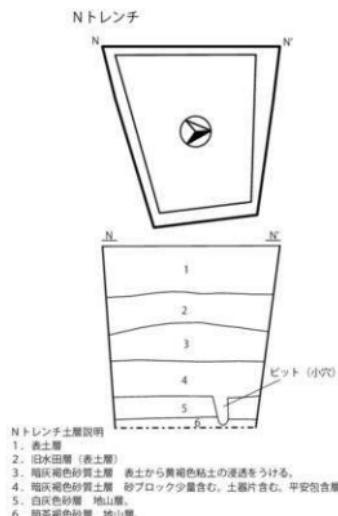
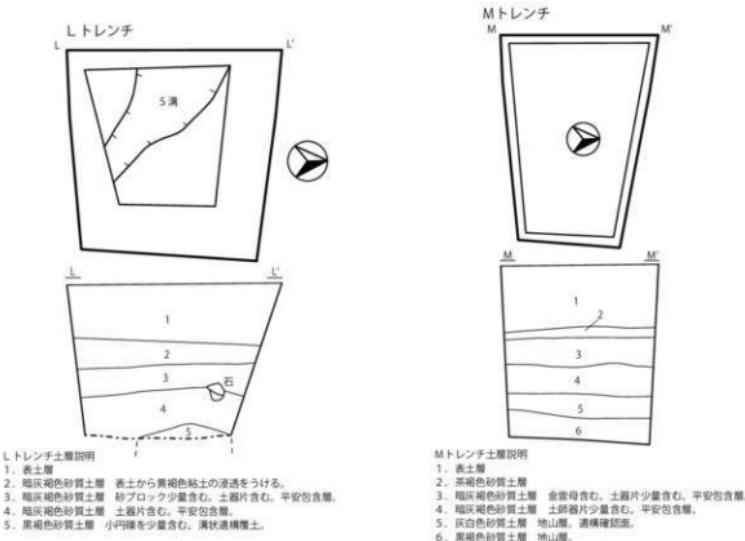


第5図 D・E・F・G トレンチ断面図

## 五反田遺跡



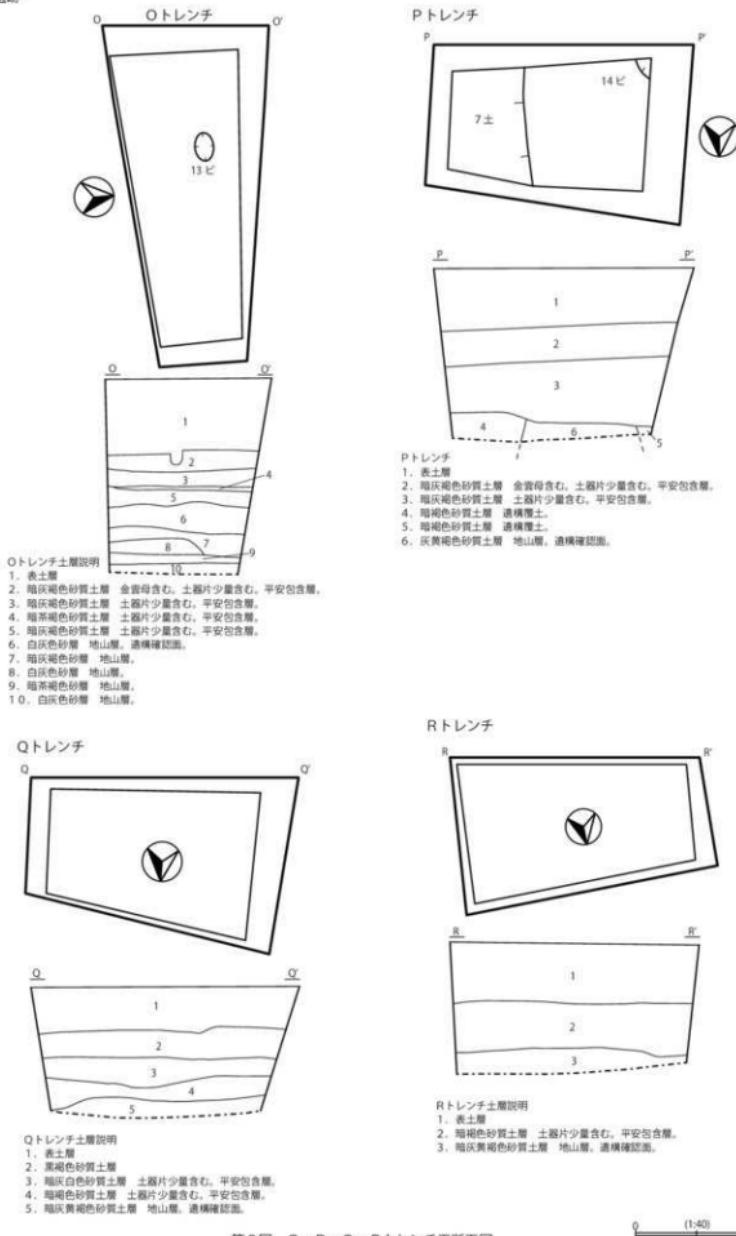
第6図 H・I・J・Kトレンチ断面図



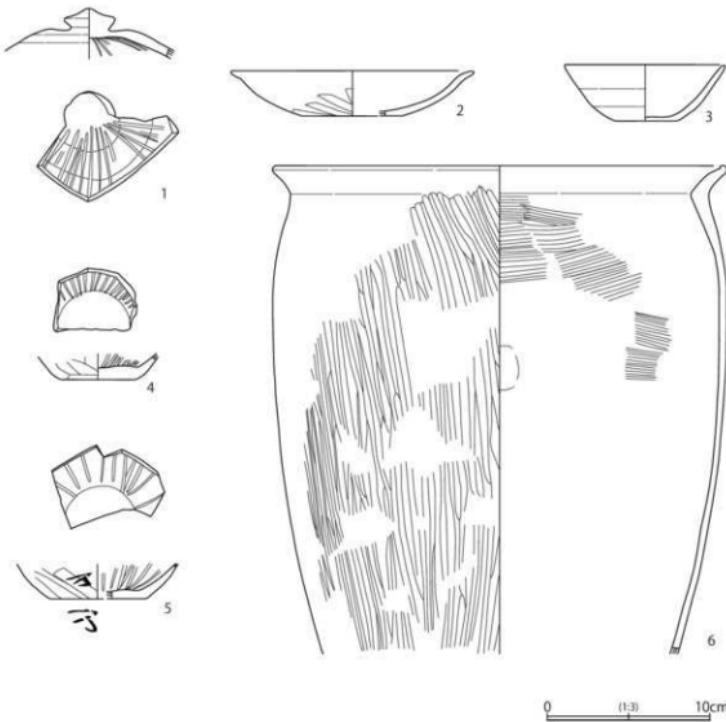
第7図 L・M・N トレンチ平面断面図

0 (1:40) 1m

五反田遺跡



第8図 O・P・Q・R レンチ平面断面図



番号	地点	種別	器種	法量(cm)			調整	色調	胎土	注記	備考
				口径	器高	底径					
1	1溝	土師器	壺	-	(3.1)	-	外・ヘラケズリ、内・ヘラケズリ後ミガキ	にぶい褐色	赤色粒子	五Aトレ1ミゾ下層	内面に暗文
2	2住床下	土師器	壺	(15.0)	2.8	(6.0)	外・ナデ、手持ちヘラケズリ、内・ナデ	褐色	赤色粒子	五Bトレ2住床下	
3	2住床下	土師器	壺	(10.0)	3.5	(4.0)	外・ナデ	褐色	赤色粒子	五Bトレ2住床下	全体に磨耗
4	Bトレンチ	土師器	壺	-	(1.6)	(4.6)	外・手持ちヘラケズリ、内・ナデ、ミガキ(印文)	褐色	赤色粒子	五Bトレ	
5	2住床下	土師器	壺	-	(2.2)	(6.0)	外・手持ちヘラケズリ、内・ナデ、ミガキ(印文)	にぶい褐色	赤・黒色粒子	五Bトレ2住床下	外面に墨書き
6	Bトレンチ	土師器	壺	(28.2)	(30.0)	-	外・粗いハケメ、内・ハケメ、板ナデ、指頭直	にぶい褐色	金黄母・黒・白色粒子	五表	

第9図 五反田遺跡出土物

五反田遺跡



表土掘削



Aトレンチ（西から）



Aトレンチ遺構確認（南東から）



Aトレンチ 1号溝（北東から）



Bトレンチ（西から）



Bトレンチ遺構確認（西から）



Bトレンチ 砖土遺構？検出（南から）



Bトレンチ 2号住居遺構検出（南から）



B トレンチ 2号溝検出（南から）



B トレンチ 2号溝完掘（北東から）



B トレンチ 2号住遺物検出（南から）



B トレンチ 2号住カマド断面（北から）



C トレンチ（西から）



C トレンチ 1号住検出（南東から）



C トレンチ 1号住遺物検出（南東から）



作業の様子

五反田遺跡



D ベンチ造構検出状況（北から）



D ベンチ造構検出状況 2（西から）



D ベンチ造構検出状況 3（北から）



E ベンチ造構検出状況（南から）



F ベンチ造構検出状況（南から）



F ベンチ造構検出状況（南から）



G ベンチ造構検出状況（南から）



G ベンチ造構検出状況（西から）



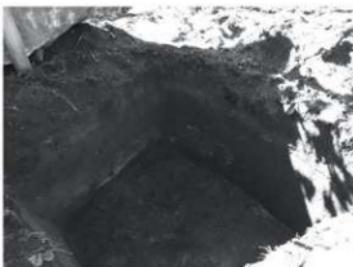
Hトレンチ粘土層検出状況（東から）



Hトレンチ土層断面（東から）



Iトレンチ砂礫層検出状況（東から）



Iトレンチ土層断面（北東から）



Iトレンチ土層断面（北西から）



Jトレンチ遺構検出状況（東から）



Jトレンチ土層断面（東から）



Kトレンチ地山検出状況（東から）



K トレンチ土層断面（東から）



L トレンチ遺構検出状況（東から）



L トレンチ土層断面（東から）



M トレンチ地山検出状況（東から）



M トレンチ土層断面（東から）



N トレンチ地山検出状況（東から）



N トレンチ土層断面（東から）



O トレンチ遺構検出状況（東から）



O トレンチ土層断面（東から）



P トレンチ遺構検出状況（北から）



P トレンチ土層断面（北から）



Q トレンチ地山検出状況（北から）



Q トレンチ土層断面（北から）



R トレンチ地山検出状況（北から）



R トレンチ土層断面（北から）

五反田遺跡



1-1



2



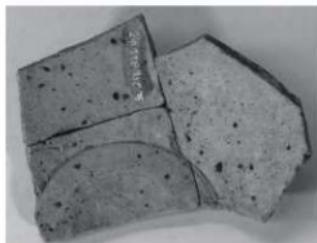
1-2



3



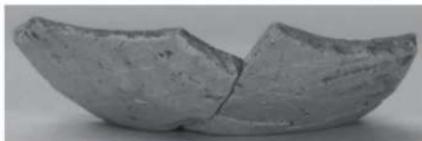
4-1



5-1



4-2



5-2



6



5-3 墨書部分拡大

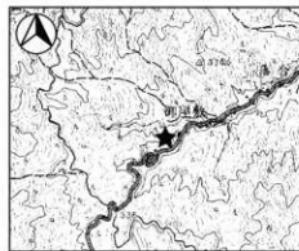
### 3 馬場平遺跡

- (1) 所在地 甲州市塩山一之瀬高橋 598 番
- (2) 調査面積 約 8.75m<sup>2</sup>
- (3) 調査原因 携帯電話基地局建設に伴う試掘調柶
- (4) 調査期間 平成 24 年 9 月 5 日
- (5) 調査結果

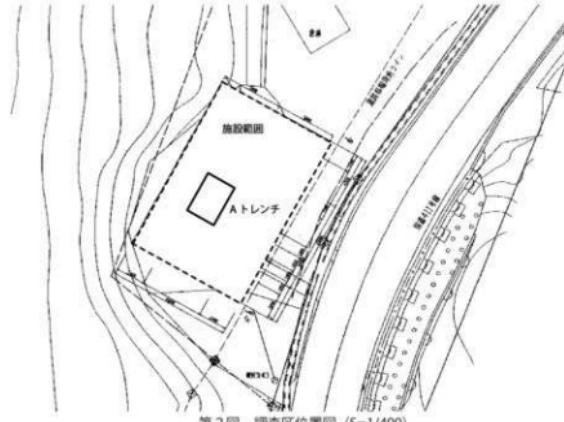
塩山一之瀬高橋 598 番に位置する（第 1 図）。当地は旧石器時代の包蔵地とされる馬場平遺跡の範囲内に含まれており、携帯電話基地局の建設に先立ち、遺跡の存在を確認するための試掘調柶を行うこととなった。

携帯電話基地局が建設される予定範囲内に約 3.5 × 2.5m のトレンチを設定した（第 2 図）。重機により地表下約 40cm の深さまで掘削したところ、地山と考えられる安定した堆積の地層を検出したため、この層の上面で遺構検出を行ったが、遺構・遺物とも検出されなかった（第 3 図）。馬場平遺跡は旧石器時代の包蔵地として知られているため、地山と考えられた第 2 層以下の掘削を重機と人力を併用して行うこととした。その結果、地表下約 2.4m まで掘り下げて調柶を行ったが、遺構・遺物とも検出されなかった。

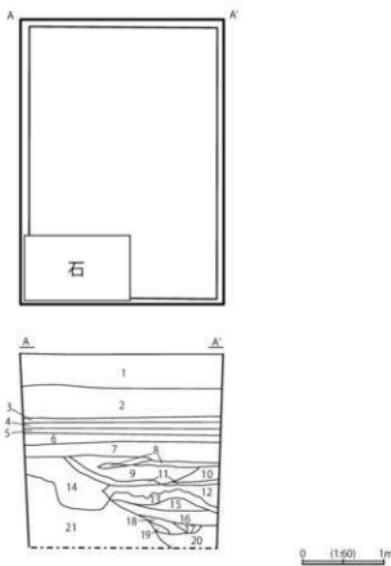
今回の調柶では遺構・遺物とともに検出されなかったが、旧石器時代の包蔵地という性質を考えると、今後、予想し得ない地点から発見される可能性も残されている。



第 1 図 馬場平遺跡位置図



第 2 図 調柶区位置図 (S=1/400)



## 土層説明

1. 黒褐色土層 しまり弱い、粘性あり。表土。
2. 明灰黄褐色砂層 しまりあり、粘性ややあり。
3. 明黄褐色土層 しまりやや強い、粘性あり。
4. 明灰黄褐色土層 しまりあり、粘性ややあり。
5. 明黄褐色土層 しまりやや強い、粘性あり。
6. 明灰黄褐色土層 しまりあり、粘性ややあり。
7. 明黄褐色土層 しまりやや強い、粘性あり。
8. 明灰黄褐色土層 しまりあり、粘性ややあり。
9. 明黄褐色土層 しまり強い、粘性あり。7層より明るい。
10. 明灰黄褐色砂層 しまりあり、粘性弱い。
11. 明灰黄褐色砂層 しまりあり、粘性ややあり。10層より暗い。
12. 明黄褐色砂層 しまり強い、粘性ややあり。鉢分を帯びる。
13. 明黄褐色砂層 しまり強い、粘性ややあり。鉢分を帯びる。黄色の粒子が鉢状に堆積する。
14. 明黄褐色土層 しまり非常に強い、粘性弱い。鉢分を帯びる。ハードローム層か。
15. 明黄褐色土層 しまり強い、粘性強い。鉢分を少量帯びる。
16. 明黄褐色砂層 しまり強い、粘性強い。鉢分を中量帯びる。
17. 明橙色土層 しまり強い、粘性あり。
18. 明灰黄褐色砂層 しまりあり、粘性あり。
19. 明灰黄褐色土層 しまりあり、粘性あり。
20. 褐褐色砂層 しまり強い、粘性ややあり。
21. 明灰褐色土層 しまり非常に強い、粘性強い。

第3図 Aトレンチ平面図



トレンチ内状況



トレンチ断面



埋め戻し状況

#### 4 大門後遺跡

- (1) 所在地 甲州市勝沼町休息 1602-1,1612-1
- (2) 調査面積 約 24.75m<sup>2</sup>
- (3) 調査原因 店舗建設に伴う試掘調査
- (4) 調査期間 平成 24 年 9 月 24 日
- (5) 調査結果

甲州市勝沼町休息 1602-1,1612-1 に位置する。饗櫛川・田草川の両川に挟まれた地点に立地し、東側には塩山バイパス（国道 411 号線）が南北に走り、北側には立正寺がある。この地点は、埋蔵文化財包蔵地である大門後遺跡（平安時代・散布地）の範囲内にあり、店舗建設予定地内に遺跡が存在するか確認するため、2ヶ所のトレンチ（A・B）を設定し調査を行った。

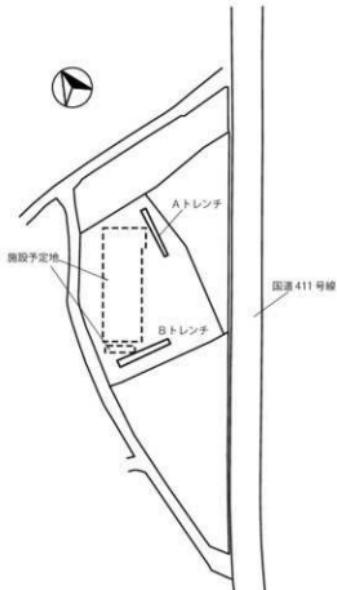
A トレンチは南北方向に約 10.6m × 1.0m で設定し、地表下約 30cm で礫層を検出、その後約 80cm まで掘削したが礫層はさらに下方に続いていた。人力による精査の結果、遺構・遺物とも検出されなかった。

B トレンチは東西方向に約 11.3m × 1.2m で設定し、地表下約 40cm で礫層を検出、その後約 90cm まで掘削したが礫層はさらに下方に続いていた。人力による精査の結果、遺構・遺物とも検出されなかった。

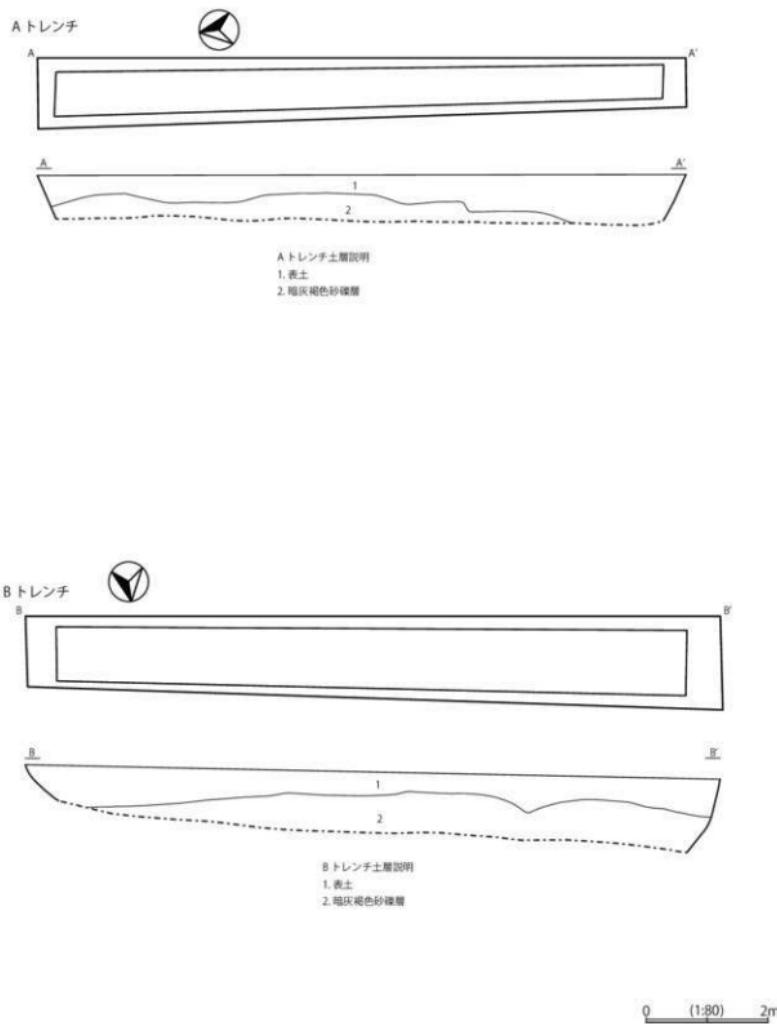
A・B トレンチの両方とも遺構・遺物はみられなかったため、調査敷地内に遺跡は存在しないものと考えられる。



第 1 図 大門後遺跡位置図



第 2 図 調査区位置図 (S = 1/1000)



第3図 A・B トレンチ平断面図

大門後遺跡



1. Aトレンチ掘削（東から）



2. 作業風景



3. Aトレンチ断面（西から）



4. Aトレンチ平面（南から）



5. Bトレンチ掘削（西から）



6. Bトレンチ平面（北から）



7. Bトレンチ断面（北から）



8. Bトレンチ平面（東から）

## 5 石骨A遺跡

- (1) 所在地 甲州市塩山熊野字横井 572-1,573-1,578-1
- (2) 調査面積 約 39.4m<sup>2</sup>
- (3) 調査原因 宅地造成に伴う試掘調査
- (4) 調査期間 平成 24 年 10 月 29 日～11 月 8 日
- (5) 調査結果

塩山熊野字横井 572-1,573-1,578-1 に位置する(第 1 図)。当地は埋蔵文化財包蔵地である石骨 A 遺跡(縄文・平安)に近接しており、北西に位置する五反田遺跡(縄文・古墳・平安)と挟まれた地点となっている。宅地造成のために掘削が予定される進入路部分を中心に、南北方向に長さ 14.4m、幅約 1.2m で調査区を設定した(第 2 図)。

重機による掘削の結果、地表下約 1 m で明確に遺構を検出したが、土層断面を見ると地表下約 60cm の高さから掘り込んでいることが確認できたため、遺構確認面は地表下 1m の層(6 層の下の層)ではなく地表下 60cm の層(5 層)上面であることがわかった。また、発見された遺構は竪穴住居と判断されたため、調査区外に延びる部分だけ調査区の範囲を広げて調査を行うこととし、竪穴住居跡 1 軒のほか土坑 1 基を確認した(第 3・4 図)。

竪穴住居(1 住)は約 2.8 × 2.9m の規模で、住居跡としては小規模な部類に入る。主軸は N-28°-E をとり、東南壁面中央部分にカマドが構築されている。カマドは掘り方のみ残存しており、袖石や粘土などの構築材は検出されなかった。住居内ピットは 7 基、周溝は北東壁面に沿う一辺のみ確認された。なお、南西壁の一部は搅乱により破壊されていた。遺構覆土から土師器片が出土している。土坑(1 土)は径約 80cm、深さ約 20cm を測る。遺物は出土していない。

出土遺物は小破片が多く、2 点を図示する(第 5 図)。1 は土師器の杯で底部から胴部にかけて残存する。底部は静止糸切り後に回転ヘラケズリによる調整を行っている。外面は回転ヘラケズリ、内面はナデを施す。2 は須恵器の甕の胴部片である。外面はタタキ、内面は指頭痕のほかほぼ無調整で、輪積みの痕跡が残る。

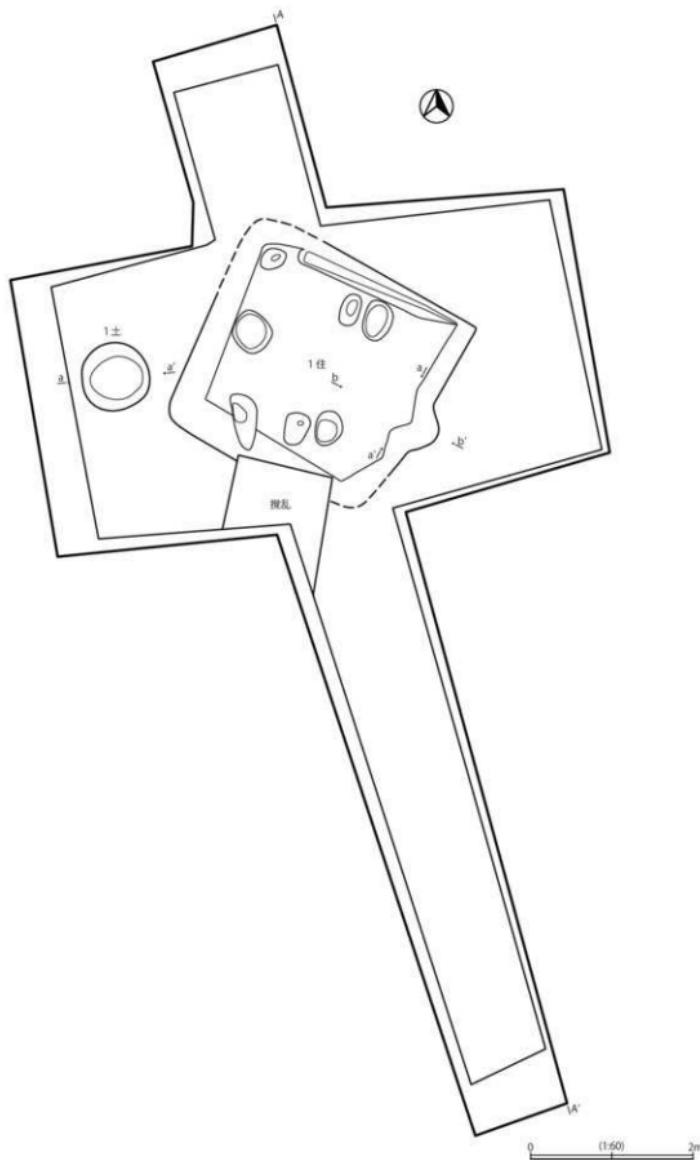
今回の調査により発見された遺構は、出土した土師器の年代から、平安時代の集落の一部と考えられ、近接する五反田遺跡との関連も推測される。



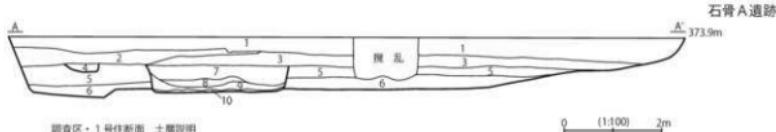
第 1 図 石骨 A 遺跡位置図



第 2 図 調査区位置図 (S=1/1000)

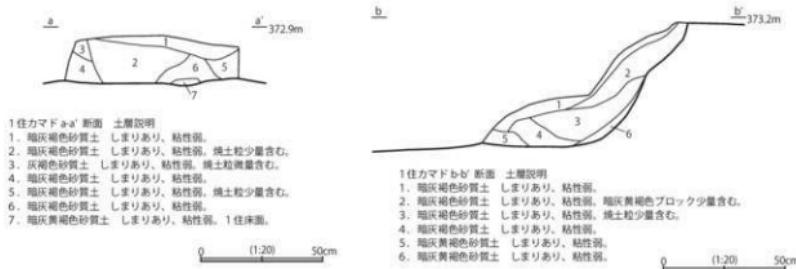


第3図 遺構平面図



- 調査区・1号住断面 土層説明
1. 砂土
  2. 黒褐色砂質土 しまりあり、粘性弱、暗黃褐色砂質土ブロック少量含む。土器片微量含む。
  3. 黒褐色砂質土 しまりあり、粘性弱。
  4. 黒褐色砂質土 しまりあり、粘性弱。
  5. 黒褐色砂質土 しまりあり、粘性ややあり、灰褐色砂質土ブロック多量含む。地山。
  6. 黒褐色砂質土 しまりあり、粘性弱、地山やあり、地山。
  7. 黒褐色砂質土 しまりあり、粘性弱、灰褐色砂質土含む。1号住断面。
  8. 黒褐色砂質土 しまりあり、粘性弱、炭化物微量含む。1号住断面。
  9. 黒褐色砂質土 しまりあり、粘性弱、地山やあり、地山。
  10. 黒褐色砂質土 しまりあり、粘性弱。灰褐色砂質土が混じる。1号住断面。

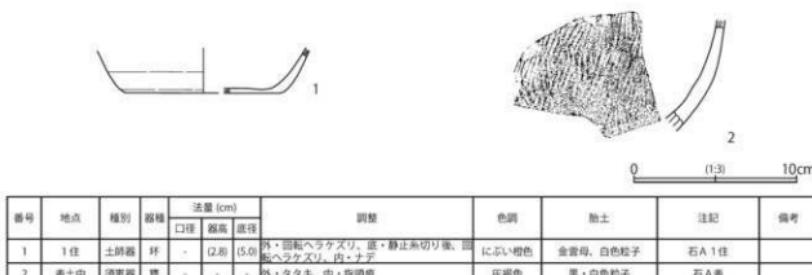
調査区・1号住断面



1号住マド



第4図 遺構断面図



第5図 石骨A遺跡出土遺物

石骨A遺跡



遺構検出



調査風景



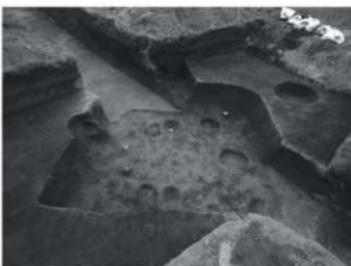
住居跡土層断面



調査風景



遺物出土状況



住居完掘



1



2

## 6 工宮遺跡

(1) 所在地 甲州市勝沼町小佐手 1265,1266-1

(2) 調査面積 約 2m<sup>2</sup>

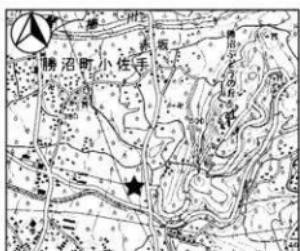
(3) 調査原因 農道拡幅に伴う試掘調柾

(4) 調査期間 平成 24 年 10 月 31 日

(5) 調査結果

勝沼町小佐手 1265,1266-1 番地に位置する（第 1 図）。当地は埋蔵文化財包蔵地である工宮遺跡が南側に近接しており、農道拡幅工事に伴って遺跡の有無を確認するため、長さ約 2m、幅約 1m の調査区を設定して調査を行った（第 2 図）。

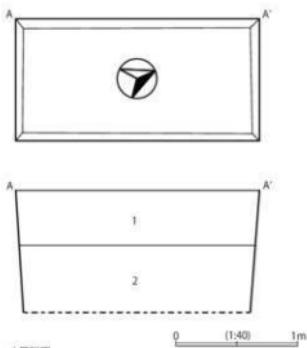
地表下約 45cm で、暗茶褐色の砂と礫の混じった砂礫層が検出された（第 3 図）。その後、重機により地表下約 1m まで掘削したが、砂礫層はさらに深く堆積していた。表土下はすぐ砂礫層であり、遺構・遺物が検出されず、周辺も同様の土層堆積状況であることが推定される状況から、当地内に遺跡は存在しないものと考えられる。



第 1 図 工宮遺跡位置図



第 2 図 調査区位置図

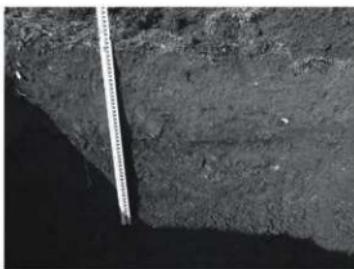


土層説明  
1. 暗茶褐色土層 表土 しまりややあり、粘性あり。  
2. 暗茶褐色砂礫層 直径 20 ~ 50mm の角礫を主体とする。

第3図 Aトレンチ平断面図



表土掘削



土層断面（東から）

## 7 熊野八反田遺跡

(1) 所在地 甲州市塙山熊野字八反田 958-1,958-3,959-1,966-1,966-3,966-8,966-9

(2) 調査面積 約 95.3m<sup>2</sup>

(3) 調査原因 納食センター建設に伴う試掘調査

(4) 調査期間 平成 24 年 12 月 17 日～19 日、3 月 25 日～29 日

(5) 調査結果

塙山熊野字八反田 958-1 ほかに位置する（第 1 図）。当地は、敷地の南半が埋蔵文化財包蔵地である熊野八反田遺跡に含まれ、北側には古墳～平安時代の集落遺跡である五反田遺跡が存在する。この敷地内に甲州市立学校の学校給食を実施するための納食センターを建設することとなり、遺跡の有無を確認するための試掘調査を行うこととなった。調査区は、既存の建物や敷地内の利用状況（自動車の出入など）を考慮し、敷地内北寄りの位置に南北方向に 2 本（A・B）のトレンチを設定した（第 2 図）。

A トレンチは長さ約 26.6m、幅約 1.6m で設定した。重機により地表下約 70cm の深さまで掘削したところ、地山と考えられる安定した堆積の地層（6・8 層）を検出したため、この層の上面で遺構検出を行った。その結果、搅乱が多かったものの、ピット（小穴）を 6 基、遺構確認面から古墳～平安時代の土師器片数点を検出した（第 3 図）。

B トレンチは長さ約 35.1m、幅約 1.5m で設定した。重機により地表下約 90cm の深さまで掘削したところ、地山と考えられる安定した堆積の地層（9 層）を検出したためこの層の上面で遺構検出を行った。その結果、竪穴住居跡 2、土坑 2、ピット 2 を検出した。1 号住とした遺構が竪穴住居であるか確認するためにサブトレンチを設定したところ、古墳時代の所産と考えられる高环の环部や壺の胴部片が出土した。また、1 号土坑とした平面が不整形の遺構上面からも土器片が集中して検出されており、これも古墳時代のもので、高环脚部の破片など土師器を主体とするものであった（第 4 図）。

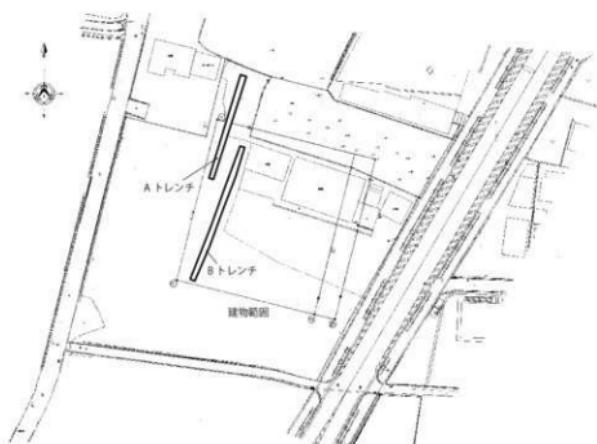
出土遺物は土師器の小破片が主体で、わずかに縄文土器なども含まれる。5 点を図示する（第 5 図）。1 は縄文土器で深鉢の口縁部。竹管状工具による平行沈線を斜位に施し、一部に粘土紐を貼り付ける。曾利式。2 は土師器壺で内外面ともハケメ調整後にミガキが施されている。3 は土師器高环の环部。4 は土師器高环の脚部上半。5 は土師器高环の脚部。中位に直径 1cm の透孔が 3 方向に穿たれている。時期は県史編年のⅢ期に相当するものと考えられ、4 世紀後葉～5 世紀前葉頃の所産と推定される。

A・B 両トレンチ内から、縄文・古墳～平安時代とみられる土器片が検出されており、B トレンチからは竪穴住居と考えられる遺構が複数検出された。調査対象地は五反田遺跡と熊野八反田遺跡包蔵地の中間の空白地帯にあるが、試掘調査の結果、当地内にも遺跡が存在することが明らかとなった。検出された遺構は、いまのところ古墳時代の所産と考えられるが、周辺に存在する遺跡に平安時代の集落などが含まれることから、今回の調査地点においても、古墳～平安時代の集落跡の存在が推定される。

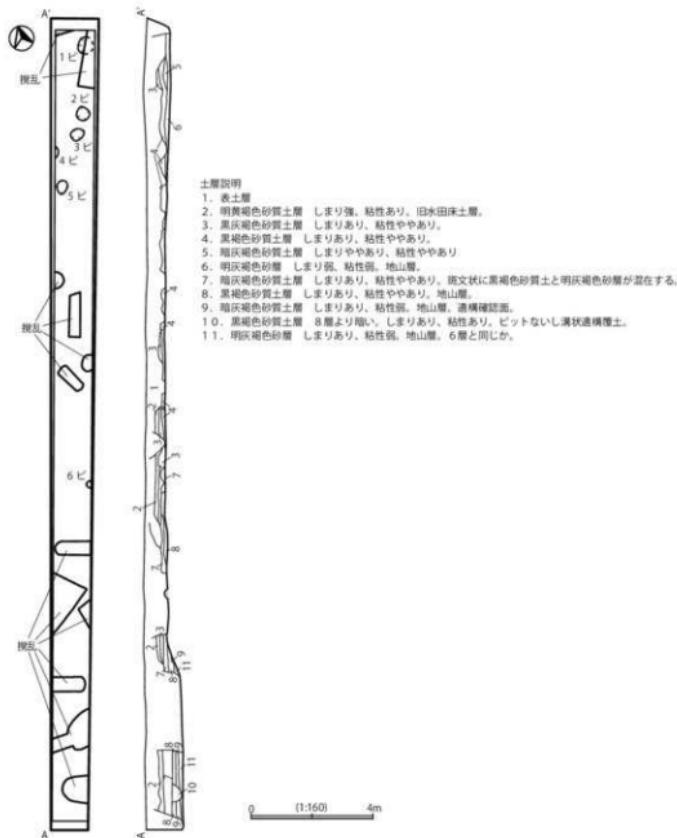
以上のような調査の結果から、納食センター建設予定範囲に対して全面的な記録保存調査が行われることとなり、平成 25 年度に調査が実施される運びとなった。



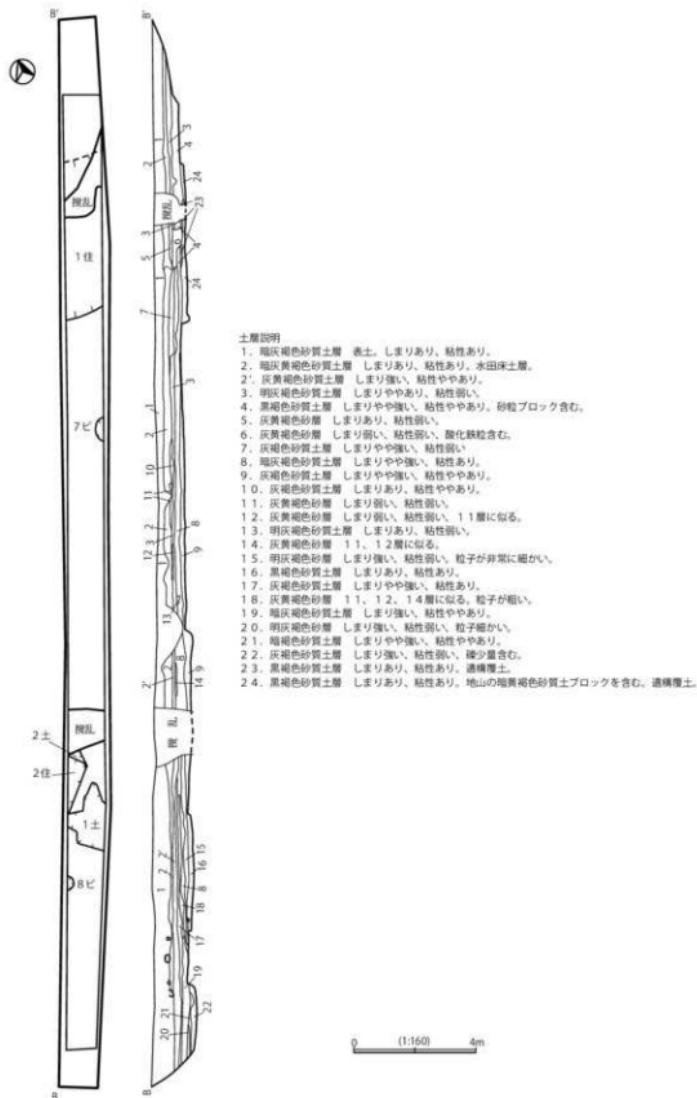
第1図 熊野八反田遺跡位置図



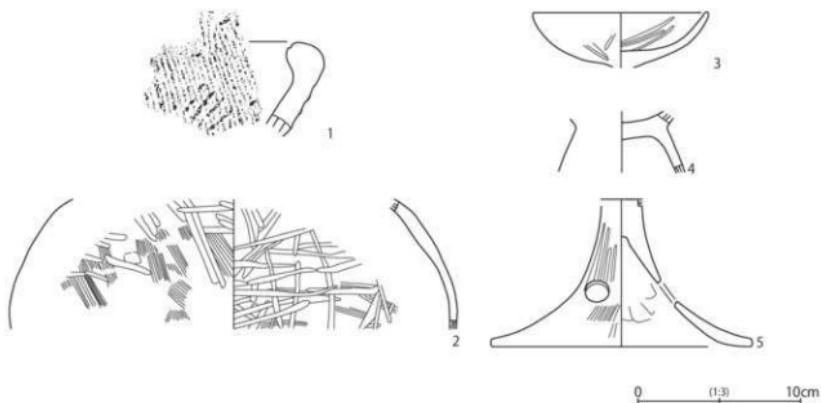
第2図 調査区位置図 (S=1/1200)



第3図 A トレンチ断面図



第4図 Bトレンチ断面図



番号	地点	種別	器種	法量(cm)			調整	色調	胎土	注記	備考
				口径	器高	底径					
1	Bトレンチ	礎文土器	深鉢	-	-	-	外・半截竹管による平行沈線、内・ナデ	にぶい橙	白・黒色粒子	2次 4	曾利式
2	Bトレンチ	土師器	蓋	-	-	-	外・ハケメ。ミガキ。内・ハケメ。ミガキ	灰黄褐色	白色粒子	2次 2 1	
3	Bトレンチ	土師器	高坪	10.8	(3.4)	-	外・ミガキ、内・ミガキ	褐色	赤色粒子	2次 2 0	
4	Bトレンチ	土師器	高坪		(3.8)	-		褐色	赤色粒子	2次 2 8	全体に磨耗
5	Bトレンチ	土師器	高坪	-	(9.1)	(16.0)	外・ミガキ、内ヘラケズリ、ナデ	にぶい橙色	赤色粒子	2次、2次(7・9・10・12・13・14・23・27)、雨イゴウ上面	直徑1cmの透孔が3方に穿たれる

第5図 熊野八反田遺跡出土遺物

熊野八反田遺跡



調査前風景



A トレンチ作業風景



A トレンチ北半土層断面



A トレンチ南半土層断面



A トレンチ遺構検出状況①



A トレンチ遺構検出状況②



B トレンチ作業風景



B トレンチ土層断面



Bトレンチ1号住居検出状況



Bトレンチ1号住居遺物出土状況



Bトレンチ調査風景



Bトレンチ遺物出土状況②



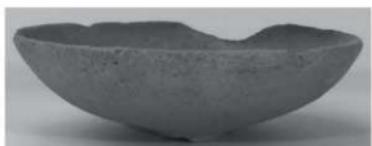
Bトレンチ2号住居・1号土坑検出状況



1



2



3



4



5

## 8 宮久保遺跡

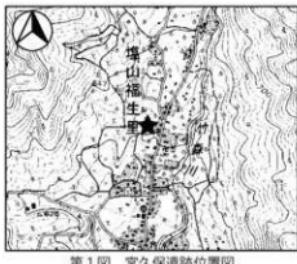
- (1) 所在地 甲州市塩山竹森 2372,2517
- (2) 調査面積 約 54m<sup>2</sup>
- (3) 調査原因 ほ場整備に伴う試掘調柾
- (4) 調査期間 平成 25 年 3 月 19 日～21 日
- (5) 調査結果

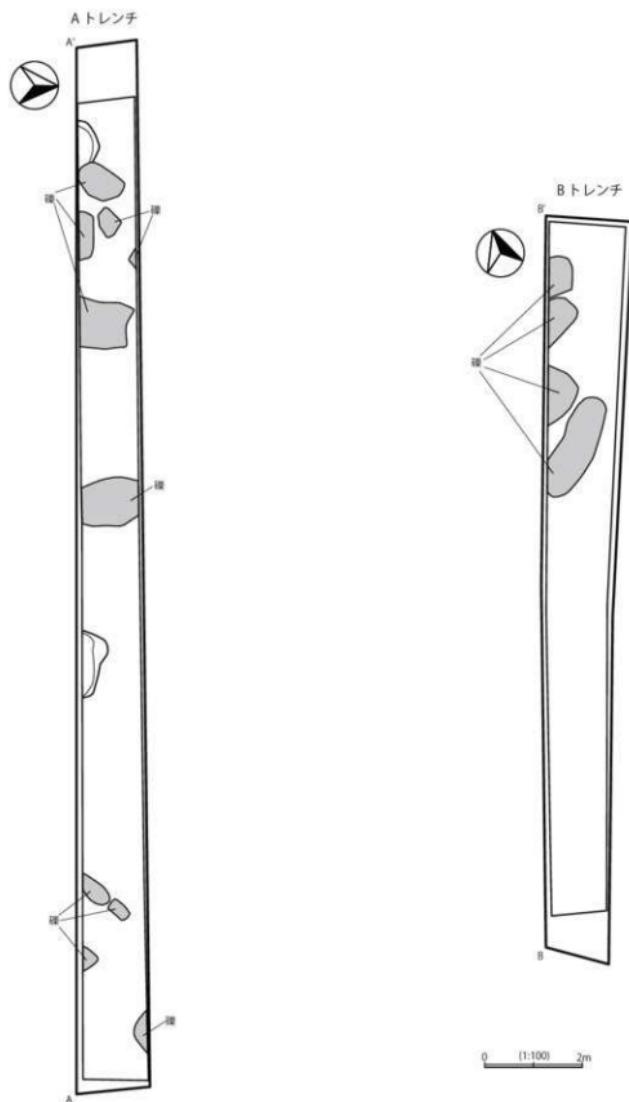
塩山竹森 2372,2517 に位置する（第 1 図）。竹森地内に県営畠地帯総合整備事業の一環として、ほ場整備工事が実施されることとなり、事業対象となる地内のうち、埋蔵文化財包蔵地である宮久保遺跡の範囲にかかる地点について、試掘調柾を実施することとした（第 2 図）。

A トレンチは長さ約 21m、幅約 1.5m で東西方向に設定し、調柾を行った。地表下約 90～100cm で、地山と考えられる巨礫を含む地層を検出したため、その面で遺構検出を行った。その結果、トレンチ内から土器片 1 点と土坑状の落ち込みを 2ヶ所検出した。土坑状の落ち込みは当初平面形態から遺構と判断したが、遺構壁面がはっきりせず、明確な立ち上がりを見出すことができなかつたため、落ち込みと判断した。

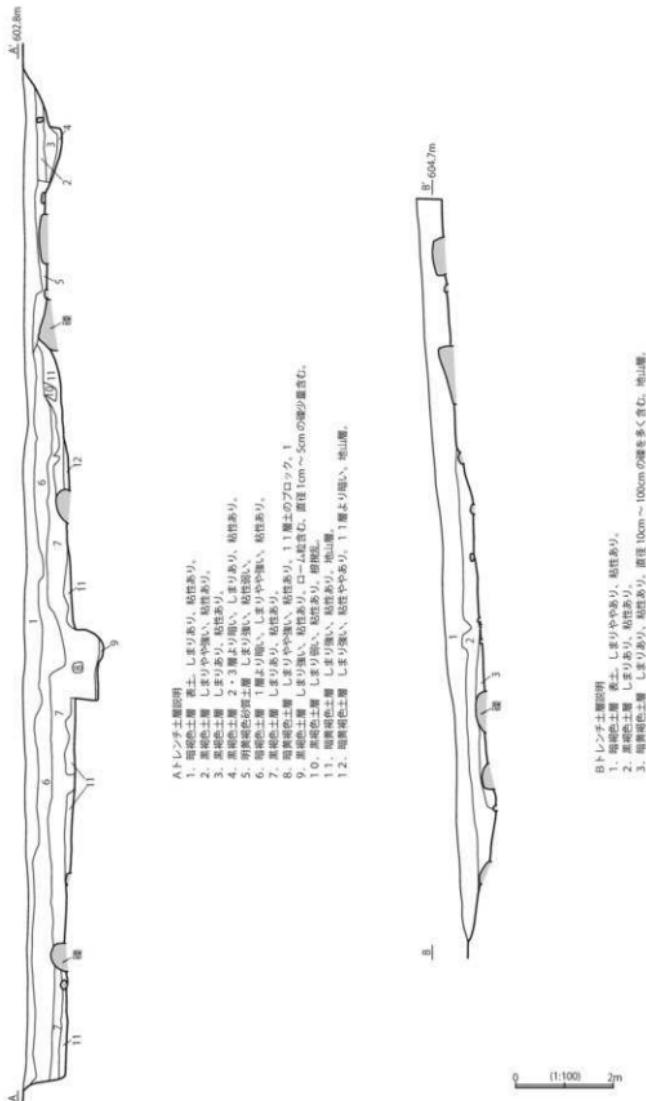
B トレンチは長さ約 15m、幅約 1.4m で南北方向に設定した。地表下約 60～70cm で地山と考えられる巨礫を含む地層を検出したため、その面で遺構検出を行った。その結果、土器片 1 点を検出したが、遺構は検出されなかった（第 3・4 図）。

A・B いずれのトレンチからも遺物は検出されたが、遺構を確認することは出来なかつた。また、発見された遺物もきわめて微量であり、流れ込んだ遺物である可能性が高い。





第3図 A・Bトレンチ平面図



第4図 A・Bトレンチ断面図



表土掘削



調査風景



A トレンチ（東から）



A トレンチ断面①（北東から）



A トレンチ断面②（北西から）



B トレンチ（南から）



B トレンチ（北から）



B トレンチ断面（北東から）

## 9 西ノ原の堡

- (1) 所在地 甲州市塩山西野原 178 番 1
- (2) 調査面積 約 22.5m<sup>2</sup>
- (3) 調査原因 携帯電話アンテナ建設伴う試掘調査
- (4) 調査期間 平成 25 年 3 月 26 日
- (5) 調査結果

塩山西野原 178 番 1 に位置する（第 1 図）。当地は現況で畠地となっているが、埋蔵文化財包蔵地である西ノ原の堡の範囲に含まれるため、携帯電話アンテナ建設に先立ち、試掘調査を行うこととなった。

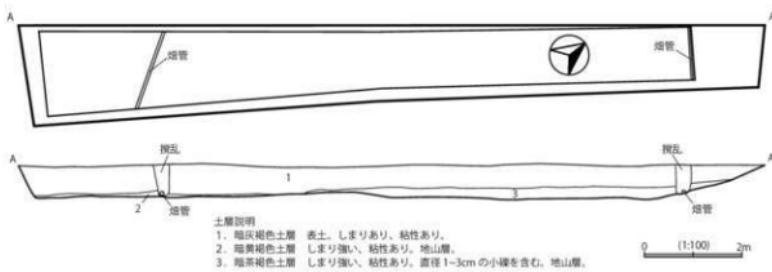
調査区は携帯電話アンテナが建設される予定範囲内に、長さ約 15m、幅約 1.5m の範囲で設定した（第 2 図）。地表下約 60cm の深さまで掘削したところ、地山と考えられる非常にしまりの強いローム質の地層を検出したため、この層の上面で遺構検出を行ったが、遺構・遺物とも検出されなかった（第 3 図）。



第 1 図 西ノ原の堡位置図



第 2 図 調査区位置図 (S=1/400)



第 3 図 A トレンチ平面断面図

西ノ原の堡



調査前風景



表土掘削



A トレンチ（北から）



A トレンチ（南から）



A トレンチ断面（北東から）



A トレンチ断面（南東から）

## 報告書抄録

ふりがな	しないいせきはくつちょうさとうじぎょうほうこくしょ
書名	平成 24 年度 市内遺跡発掘調査等事業報告書
シリーズ名	甲州市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 15 集
編著者名	飯島泉・雨宮亨・入江俊行
編集機関	甲州市教育委員会
所在地	〒 404-8501 山梨県甲州市塙山上於曾 1085-1 電話 0553-32-5097
発行年月日	平成 26 年 3 月 31 日

ふりがな	ふりがな	コード	世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経		
西之田遺跡	甲州市勝沼町山 237,241,244, 191-1	19213		35° 41' 2"	138° 43' 7"	平成 24 年 6 月 28 日～ 29 日	約 111.46m <sup>2</sup> 店舗建設
五反田遺跡	甲州市塙山熊野字 横井 505,520,524, 525,526	19213	塙 30	35° 41' 34"	138° 43' 55"	平成 24 年 8 月 29 日～ 9 月 5 日。 9 月 18 日～ 10 月 1 日	約 271.89m <sup>2</sup> 店舗建設
馬場平遺跡	甲州市塙山一之瀬 高橋 598	19213	塙 173	35° 47' 42"	138° 48' 28"	平成 25 年 9 月 5 日	約 8.75m <sup>2</sup> 携帯電話基地 局建設
大門後遺跡	甲州市勝沼町 休息 1602-1, 1612-1	19213	勝 17	35° 40' 38"	138° 43' 4"	平成 24 年 9 月 24 日	約 24.75m <sup>2</sup> 店舗建設
右骨 A 遺跡	甲州市塙山熊野字 横井 572-1,573-1, 578-1	19213	塙 31	35° 41' 31"	138° 43' 56"	平成 24 年 10 月 29 日～ 11 月 8 日	約 39.4m <sup>2</sup> 宅地造成
工宮遺跡	甲州市勝沼町 小佐手 1265,1266-1	19213	勝 23	35° 40' 16"	138° 43' 54"	平成 24 年 10 月 31 日	約 2m <sup>2</sup> 農道拡幅
熊野八反田 遺跡	甲州市塙山熊野 字八反田 958-1, 958-3,959-1, 966-1,966-3,966- 8,966-9	19213	塙 24	35° 41' 27"	138° 43' 46"	平成 24 年 12 月 17 日～ 19 日。 平成 25 年 3 月 25 日～ 29 日	約 95.3m <sup>2</sup> 学校給食施設 建設
宮久保遺跡	甲州市塙山竹森 2372,2517	19213	塙 141	35° 44' 19"	138° 44' 42"	平成 25 年 3 月 19 日～ 21 日	約 54m <sup>2</sup> ほ場整備
西ノ原の堡	甲州市塙山西野原 178-1	19213	塙 201	35° 41' 13"	138° 43' 53"	平成 25 年 3 月 26 日	約 22.5m <sup>2</sup> 携帯電話 アンテナ建設

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西之田遺跡			なし	土師器・磁器片	
五反田遺跡	集落	平安時代	竪穴住居跡、小穴	土師器・須恵器片	平成 25 年度 に本調査
馬場平遺跡	散布地	旧石器時代	なし	なし	
大門後遺跡	散布地	平安時代	なし	なし	
石骨 A 遺跡	集落	平安時代	竪穴住居跡、小穴	土師器・須恵器片	
工宮遺跡	散布地	平安時代	なし	なし	
熊野八反田遺跡	集落	古墳時代・ 平安時代	竪穴住居跡、溝、小穴	縄文土器・土師器・須恵器片	平成 25 年度 に本調査
宮久保遺跡	散布地	縄文・ 平安時代	なし	縄文土器・磁器片	
西ノ原の堀	城館跡	中世	なし	なし	

山梨県甲州市  
平成 24 年度 市内遺跡発掘調査等事業報告書  
2014  
編集 甲州市教育委員会 生涯学習課  
住所 山梨県甲州市塩山上於曾 1085-1  
電話 0553-32-5097  
発行 甲州市教育委員会  
発行日 平成 26 年 3 月 31 日  
印刷 株式会社 峡南堂印刷所